

削られる生活保護

「怠け者のレッテル、悔しい」

「あなたの資力に依りて、どの程度の援助ができるか、」と回答ください。大阪市内の実家を離れて奈良県の大学に通う学生(19)のパートに昨年10月、生活保護を受けている姉にお金を出して「扶養」するよう求めた文書が役所から届いた。

離婚した姉が母子家庭になり、生活保護を受けていたのは聞いていた。だが「自分はまた学生」。週に数日、コンビニでの深夜のバイトで得る7万円は、家賃や生活費で消える。「余裕がないのでは、市もわかっているはずなのに」。乾いた文面を眺み返しながら、怒りがこみあげた。生活保護を受ける人の割合が政令指定都市で最も高い大阪市では、こうした親族への「調査」のほかにも、警察OBを入れた「不正受給監視チーム」をつくるなど、政府の先をいく生活保護費の削減策が進む。そのおぼろげで、大阪府岸

職ないのに「働け」 給付されず

和田市に住む旧三洋電機(現パナソニック)の元派遣社員(40)は生活保護の受給申請を何度も「却下」され続けた。「怠けているかのようなレッテルをはられ、悔しかった」。会社の経営悪化で「雇止め」になり、生活保護を申請したが、市の窓口では「若いのだから仕事を探してください」と門前払い。その後も申請しては「却



職につける人より生活保護を受ける人が多くなった日雇い労働者の街・あいりん地域。「特区構想」で再開発の話がもたらが、野宿のバラックが並ぶ公園では、仕事にあふれた人たちが府の就労支援事業で清掃をしていた。近くには、百貨店や高級ホテルが入る日本一の高層ビル(奥)の建設も進む。大阪府西成区、高橋正徳撮影

板挟みになっているのが、生活が苦しい人の相談を市から委託されているケースワーカーだ。役所からは「申請が出て、求職活動が足りない」という形になっているべく生活保護にならざるを得ない状況だ。だが「働け」というだけでは「なんでもかんでも生活保護」というのでは、制度がもたない」と市の川勝洋一保護課長は説明する。自治体に呼吸を合わせるかのように、政府は先月末、新年度予算案で、給付水準の引き下げなどで生活保護費の伸びを670億円削ることを決めた。大阪のタレントの母親の「不正受給」問題をきっかけに進んだ保護削減の動き。貧困問題に取り組んできた小久保哲郎弁護士は「生活に余裕がなくなった人が増える中、(生活保護を受ける)弱い立場の人をたいてい留飲を下げる。そんなムードに政府も悪のりしている」と心配する。

特区弱者排除の恐れ

日雇い労働者の街、大阪府西成区にあいりん地域では、1万人弱の生活保護受給者や高齢の労働者を街から追い出すことになりかねない構想がくすぶる。橋下市長が唱える「西成特区構想」がそれだ。税の減免などで大学を誘致したり、小中一貫校をつくったりして、子育て世代を呼び込む。ビジネス街として再開発し、関西空港と結ぶ長距離バスターミナルをつくる計画もある。「大阪都構想」では、市内の24区を特別自治区に再編する。ところが、西成区との合併を、多くの区が拒否した。 「あいりん地域があるから企業も来ない」という懸念も立ちはだかる。その一掃になれば、イメージが悪く地価も下がる。押し付け合ひだった。再編の案案作りに参加してきたある区長は打ち明ける。 そんな中での特區構想に、地元では反発が広がった。「あいりん地域をなくしてどうして」スラム・クリ

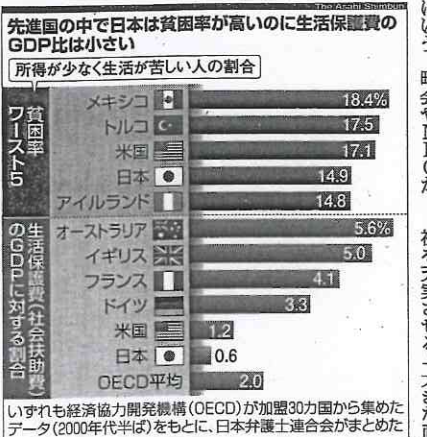
「自助」か「底上げ」か

生活保護の受給や就労、医療・介護の支援をしてゆるやかに支える町づくりを進める。「自助」の現実だ。新しい人や資金を呼び込んで自立を促す「自助」か、いま暮らし人の生活水準を引き上げて活気づける「底上げ」か。地域の再生をめざす二つの考え方が、西成で対峙する。それは、国の関与を減らして市場経済の効率性を重視する「小さな政府」にすべきか、NPOとも協働して福祉を充実させる「大きな政府」を推す。府と市の二重行政をやめるなどして行政の効率を上げる。そうすれば、地域経済の生産性ももっとあがれるし、成長できる。生活保護も減らせる。「年越し派遣村」などで貧困問題に取り組んできた湯浅誠さんは昨夏から活動拠点を大阪に移した。派遣社員やパートと呼ばれる若者の交流などに取り組む。 「橋下市長らの政策は、ぼろぼろ仕事をさせるサラリーマン男性だけで社会が回るようなイメージ。だが現実には、高齢者や障害者、社会に適応できない若者など様々な人がいる。みんなが

限界につぼん

第2部 雇用と成長 大阪から⑧

先進国の中で日本は貧困率が高いのに生活保護費のGDP比は小さい



「マクドナルド」への読者の皆さんからの反響をもとに、今回は非正規社員の貧困について再検証します。これまで大阪を主な舞台にしてきましたが、今後は対象を広げ、問題をより深く掘り下げます。

記事へのご意見などをメールアドレス(keizai@asahi.com)までお寄せください。